



清野 伸昭

社団法人東北経済連合会 副会長

「MOTTAINAI」の精神

今年9月、ケニアのノーベル平和賞受賞者のワンガリ・マータイさんが亡くなりました。2005年に京都議定書関連行事出席のため来日した際に、日本語の「もったいない」という言葉に感銘を受け、国連女性地位委員会で出席者全員で「もったいない」を唱和したニュースが印象深く思い出されます。アフリカで環境・自然保護運動を続けた彼女の「MOTTAINAI」の言葉は全世界に広まり、CO₂削減の環境問題とともに大きな話題となりました。

今年は巨大地震・津波、豪雨と天災に見舞われた年でした。3月11日に東日本大震災が発生し、福島第一原子力発電所をはじめ多くの発電所が被災し、電力供給量が大幅に減少、国民生活や産業活動に大きな影響をもたらしました。電力不足による大停電や計画停電の危機を回避するため、この夏大規模な節電対策がとられ、山形県は山形方式節電県民運動として展開、20%の節電ができました。いよいよ冬の季節を迎え、今冬も厳しい電力事情が予測されており、夏同様の対応が求められています。

今後は私達が享受してきた便利で豊かな生活を、従来のような「大量生産」「大量消費」「使い捨て文化」によって維持するのではなく、地球にやさしく、持続可能な社会の中で維持していくことが求められています。私は今日までの日本の発展を考えれば可能であると信じます。日本は戦後世界に類を見ない経済発展の過程で、公害をはじめ様々な困難を乗り越ってきました。それは日本人の持つ勤勉さ、研究熱心さ、技術力のすばらしさです。東日本大震災の復旧・復興は国を挙げて取り組む緊急の課題ですが、私達は生活スタイルを変え、産業の構造転換を果たしながら対応を考えなければなりません。大震災による節電への取り組みは単に電力の需給量減少に伴う節電だけでなく、私達企業活動や社会生活のあり方などを問題提起してくれたものと思います。

私達は日本人の持つ優秀な技術力を駆使して地球にやさしいサステナブルな社会を創造していかなければなりません。もっと大切なことは、どんな社会であろうとも日本人の「MOTTAINAI」精神を忘れてはならないことです。それは単にモノを大切に、生かすなどに止まらず、言葉の根底にある、全てのものに「感謝するところ」であり、驕ることのない「謙虚なところ」を持つことの大切さをも含んでいると思うのです。

(山形県商工会議所連合会 会長・せい のぶあき)